

好きなことを追求する姿勢は誰にも邪魔できない!

ライトニング 2011年3月号(海游300発売)1月26日発売 第18巻 第3号

# Lightning

2011 Vol.203

3月号 特別定価 ¥880

ライティング

特集1

とことんやらなきや  
気が済まない。  
凝り性の行き着く先は  
ここにある。

## 愛しき ヘンタイ。

- ・コンボイヘッドに乗るサラリーマン。
- ・バーツひとつまでアメリカ製にこだわり続けるブーツライフ。
- ・1万個のヴィンテージルアーに囲まれたライフスタイル。
- ・ヴィンテージウェアに人生の20年を捧げた收集癖。
- ・どんな靴でも確実に光らせる。磨きの美学。
- ・場所は非公開。紹介がなければたどり着けない古着店。
- ・スナップボタンをひたすら研究し続ける人生。

and more...

特集2

バイクは機能や  
スペックがいいやない!!

目指せ、  
こだわりの  
バイカースタイル。

別冊付録  
全国の  
こだわりショップを  
網羅!!  
「Lightning  
SHOP GUIDE」  
付き!!

ボディのスッキリ感とモダンなパワーが魅力。



↑初代ユーノスロードスターより軽く仕上がったライトウェイトスポーツ。強革な心臓を移植され、文字通りに生まれ変わった走りを満喫することができる



←この長いノーズがフェアレディの最大のチャームポイント。これほどドライバーを引き立てるクルマは他に類を見ない



↑オープンカーのカッコよさはリアビューにあり！ 国籍を超えたエキゾチックカーと呼ぶにふさわしい



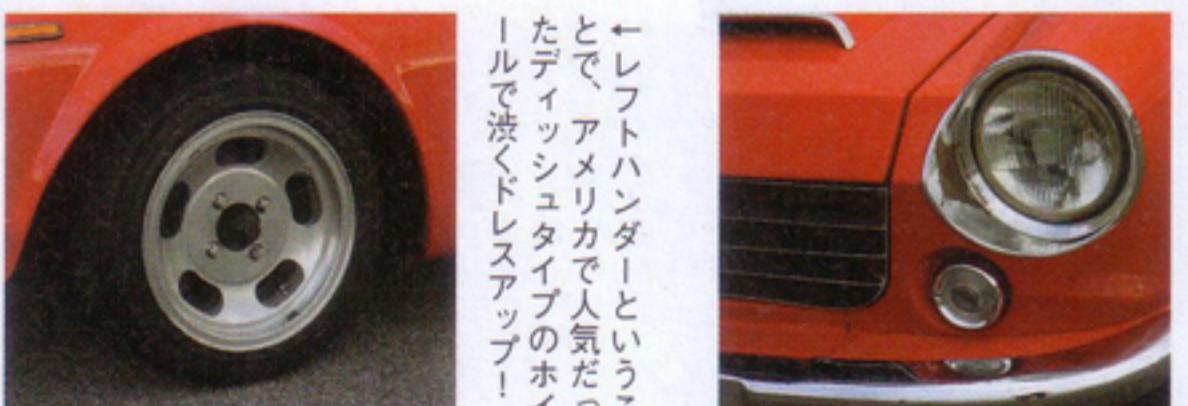
←このクルマが淑女たる所以がこのお洒落なテールランプ周りにある。と思うのは私だけ？



←ニッサンの純正バーツを流用して作りこまれたダッシュ周り。オートエアコンやATシフトノブにも注目



←コンバートされたエンジンはニッサンのSR20DE。1990年代から2000年にかけて多くのミドルクラスに搭載された1998ccのDOHCで、165馬力を発生する



↑レフトハンドラーということで、アメリカで人気だったディッシュタイヤのホイールで洗ぐドレスアップ！

### Yamahenの実際どーなのよ！



#### ①軽でパワフルな2シーター

アメリカから逆輸入されたレフトハンドルのフェアレディをベースに、シルビアのエンジンをコンバート。たった800kgちょっとしかないホットなクラシックだ。オートマとはいえ、トルクフルなパワーで振り回す感覚は面白いのひとこと。おおらかに楽しむマニアには最高！

#### ②これをベースに煮詰めたい

パワープラントはもちろん、基本的なボディワーク、駆動系はきっちりと出来上がっている。ここから好みに応じてサスペンションをいじったり、タイヤとホイールで個性を演出するなど、ユニークなモディファイプランでオリジナリティを追求したい1台だ

#### ③車両本体価格522万9000円

今や超がつくほど稀少となったSR系をベースに、エンジンコンバートのエキスペートが手を入れた堂々と登録できるクルマとなれば納得の価格。オートエアコン、パワステが当たり前のように戻装備されているあたりが面白い

### 楽しい旧車をプロデュース。



Rocky Auto  
ロッキー・オート

〒444-0865  
岡崎市明大寺大木55-31  
TEL0564-58-7080  
www.rockyauto.co.jp

東名高速の岡崎インターチェンジを降りて5分という、関東からも関西からもアクセスが可能なショップ。絶版車をオリジナルに忠実にレストアする高い技術を持ちながら、あえて今のニーズに合わせたコンセプトで“楽しい旧車”をプロデュースする

買って、乗れる国産旧車  
Yamahenの

# CHECK & RIDE!



者に同様な意見をぶつけたところ、それは逆行でありメーカーとしてはあり得ない、という。ごもっとも。がしかし、メーカーのテーマがユーチューバーが欲しいものを作る、ということであれば、そのスタイルが古いものであろうが何だろうが作ればいいのに、と私は思う。たぶんメカニカルはあの時代とは保安基準を始めあらゆる要素が変わっているから無理なのです、と答えるだろう。だから、そこをクリアすることも技術では？ 超高性能の追求も素晴らしいけど、どんでもない性能を望むのではなく、今時の大衆車並の性能で十分だから、旧車ファンを唸らせるクルマを作つて！ と叫びたい気

力 テコリーを問わず、趣味的に乗れるカッコいい国産旧車を紹介しているこのコーナーには、これまでにさまざまなクルマが登場した。実際に普段の足として、あるいはセカンドカーとして趣味的旧車を導入することはけして簡単なものではない。その要因はいくつか挙げられるが、中でも最も多くの人が口にするのが、故障に対する懸念だ。「カッコいいけれど壊れない？」とか、「もし壊れたら修理バーツはあるの？」といった類の質問はお約束である。私の周りにいる編集者やデザイナーも同様だ。その答えは10台のクルマがあれば10通り、つまり全てはその固体の希少性や程度によるわけだが、面白い現象としてあまりメカに詳しくない人に限って、なにや

分である。なぜならば、どのメーカーにも素晴らしいヘリテージと呼ぶにふさわしいクルマがあるのだから。さて今月紹介する1台は、そんなクラシックティリストを今の感覚で楽しめるクルマ好きに「ロッキーオート」が提案するひとつスタイル。オープンスポーツカーとして世界が評価した名車に、近代的な動力性能と快適性を注入したモディファイドクラシックである。ノーマル絶対主義のファンの方にはご理解いただけないかもしれないが、私的にはこのクルマはかなりいい感じ。なぜなら乗って楽しく、見て懐かしい、安心して高速ドライブができるシックスティーズだからである。

File #62 1967 DATSUN FAIR LADY SRL311 with SR20DE

## 大きいなるヘリテージを 今の感覚で楽しむ。

ファン垂涎のオープンカーにタフで静かなニューエンジンを搭載。なんとも楽しい雰囲気がいい感じ。

text/K.Yamazaki 山崎和彦  
photo/T.Sakurai 桜井健雄  
取材協力/ロッキー・オート

